

子育てを 支援する

少子化による町の人口減少や、核家族化による家族構成の変化、つながりが希薄になるなどの地域社会の変化といった、家庭や地域における子育て環境が大きく変化しています。

町では、楽しい子育てを応援し、育児と仕事の両立をサポートするため、子育て支援室や保育所を設置し、子育てがしやすいまちづくりに努めています。

そして、各施設では職員だけではなく『地域の力』が支えています。子育て支援室、保育所、地域の人が手を取り合い、『地域の宝』である子どもたちを育てています。



ひのっこ保育所では午後6時15分まで延長保育が行われています。お母さんのお迎えに、子どもたちは「待ってたよ」と笑顔になります。

ぽかぽかと暖かい集いの広場 子育て支援室おひさまひろば

子育て中のお父さん、お母さんの集いの場として、
楽しい子育てを応援します。
安心して子育てができるようサポートしています。

て支援室おひさまひろば』は、毎週水曜日から金曜日までの午前9時から午後2時まで開所しています。担当職員が支援活動の企画や育児不安などの相談指導、情報提供を行うほか、毎月の家庭訪問で、子育てを支えています。

また、保育所内にあるため、将来保育所へ入所する子どもが施設に慣れたり、保護者も保育士と顔見知りになれるといった、一貫したつながりやかかわりが持て、安心して入所できます。

子育て支援室を担当する保育士の加藤文子さんは「私も母親であり保育士でもありますので、その経験をお母さんたちに伝えていきます。この『おひさまひろば』は“太陽”を大事にして遊ぶようにしています。夏は水遊び中心だったり、晴れていれば園庭に出て遊んでいます。みんな元気いっぱいなんですよ。また、ここではお母さんたちがお互いの子育てについて情報交換をしておられ、良い交流の場となっています」と話します。

また担当として「もっとお母さんたちの意見を聞きながら、一緒に企画していきたいですね」と、今後の活動に力が入っています。

子育て支援室は、核家族化などで子育てが孤立し、不安感や負担感を解消するため、子育て中の親子が気軽に集い交流し、不安・悩みを相談できる場として設置されています。

ひのっこ保育所内にある『子育て

伸び伸び育つ日野の子 ひのっこ保育所

木の香る、明るい園舎では、元気よく遊ぶ声が響きます。
大きく変化する子育て環境の中、
育児と仕事の両立をサポートしています。

保育所は、何らかの理由で家庭で保育できない場合、家庭に代わって保育を行う施設です。

ひのっこ保育所（定員90人）は、生後6カ月から5歳までを対象とし、平日は午前7時30分から午後6時15分まで、土曜日は午前7時30分から午後1時まで開所しています。

生後6カ月からの未満児保育では、園舎内給食により離乳食の対応が可能で、安心して生活できます。また、平日は午後6時15分まで延長保育を行い、子育てを支えています。

また、町では、0歳から15歳まで一貫して育てる『保小中一貫教育』に取り組んでおり、『町子ども15年プラン』に基づき、地域や保護者が保育所の活動にかかわり

やすくなっていますし、支援室や小学校と交流事業を行い、なめらかな接続にも力を入れています。

長谷川真由美所長は「ここは職員も基準以上に配置しており、個々に対応した手厚い保育をしています。午後6時15分まで延長保育をしています。迎えに来られたときの子どものうれしい顔にほっとします」と笑顔。

続けて「15年プランにより、地域と保護者がかかわりやすくなっています。よそにはないことだと思います。地域とのかかわりが多く、いろいろな体験ができます。声をかけるとすぐ助けていただける関係に本当に喜んでいきます。頼りになります」と、長谷川所長は地域の力に感謝し、その大きさに支えられていると話します。